

2017年10月理事会議事録

日 時：2017年10月20日（金）15：45～17：40

2017年10月21日（土）12：00～12：15

場 所：宮崎公立大学交流センター多目的ホール（20日）

宮崎公立大学福利厚生棟食堂（21日）

出 席：谷川章雄・近藤英夫・石川日出志・大島直行・小笠原永隆・岡山真知子・小澤正人・久保田正寿・佐々木憲一・佐藤宏之・篠原和大・杉井 健・関根達人・都築恵美子・橋本裕行・堀内秀樹・宮本一夫・長瀬 衛、（事務局：林 純子・堀田菜摘子）

欠 席：岡内三眞・瓦吹 堅・菊池誠一・佐々木和博・新納 泉・矢島國雄、監事：唐澤至朗・吉田哲夫

進 行：佐藤宏之

議 長：谷川章雄

佐藤理事から、本日の出席者は18名で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

佐藤理事から、海外（アメリカ）の篠遠喜彦会員が2017年10月4日に亡くなられたとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第442号 平成30年度科学研究費助成事業について

佐々木憲一理事から、9月理事会議案第437号で承認された『Japanese Journal of Archaeology』（以下、JJA）の科学研究費申請について、申請の計画調書（案）が提示され、新たな取組として、総大会時や海外の学会において国際セッションを開催してJJAに成果を掲載すること、及び若手研究者の国際発信能力の育成を行うことを柱として申請したいとの説明があった。審議の結果、提案を生かしつつ、JJAの投稿増加に直接繋がる取組に修正した方が良いとの意見があり、英文機関誌編集委員会の宮本担当理事及び溝口委員長を中心に、改めて調書案を作成し、提出期日が近いことからメール審議とすることとなった。

議案第443号 2018年度総会研究発表における共催セッション企画について

佐藤理事から、日本学術会議史学委員会文化財の保護と活用に関する分科会と、第84回総会においてセッションを共催で行いたいとの説明があり、原案通り承認した。

議案第444号 賛助会員（法人会員）の特典について

石川副会長から、賛助会員のうち法人会員について、総大会の『研究発表要旨』や『会報』の無償配布のほかの権利として、賛助会員規定第6条にある図書交換会の優遇措置の割引率（案）の検討案が提示された。審議の結果、総会及び大会実行委員会の収入への影

響も検討した上で、賛助（法人）会員の会場整理費については1卓の大きさを正会員と同様の大きさとし、現状の非会員より割引になる金額とした。また、その他の入会権利として、総大会研究発表要旨等の広告掲載料の割引や会報への団体名・社名の掲載、協会ホームページからリンクを張ることが提案され、承認した。

続けて、谷川会長から、9月理事会議案第436号で提案された会費納付システム及び総大会参加費のワーキンググループは、谷川会長、近藤副会長、総大会担当：小澤理事、財務担当：都築理事、矢島理事からなる8名で構成し、検討を進めることが説明された。

議案第445号 寄付金の依頼について

小笠原理事から、2017年1月理事会議案第390号で参加を承認した要望書については、その後、ワーキンググループが結成され、自治体アーカイブズ研究会として活動している。活動にあたり、要望書に参加した各団体に寄付金の依頼があるとの説明があった。審議の結果、正式な団体ではないこともあり、協会としての支出は適切とは認められないが、有志で寄付を行うこととした。

議案第446号 総会の議事次第の構成について

小澤理事から、継続審議となっていた総会時の議事次第について、①これまで報告事項を先に行っていたが審議事項を先に行う。②前年度事業報告と収支決算承認を、審議事項で一括して扱い、収支決算書類のみ承認を行う。③日本考古学協会賞や70周年事業の永年在籍会員の表彰などは、定款及び各種規程によると総会承認事項ではないため、全ての議事終了後に行うとの提案があり、原案通り承認した。

議案第447号 著作権譲渡承諾書について

篠原理事から、機関誌『日本考古学』では、日本考古学協会著作権規定の制定・施行を受けて「著作権譲渡承諾書」の提出を求めるにあたり、執筆者への依頼の時期や英訳者への著作権の一括譲渡承諾書の必要性など、運用面での課題について説明があった。審議の結果、機関誌・JJA・年報・会報・研究発表要旨等の各刊行物によって編集過程が異なることから、それぞれの担当及び編集委員会で対処しつつ、全体的な方向性や具体的な問題点の整理には、著作権規定に係るワーキンググループで対処することとなった。続けて谷川会長から、本ワーキンググループは、谷川会長、石川副会長、機関誌担当：篠原理事、年報担当：小笠原理事、唐澤監事、吉田監事からなる6名で構成し、検討を進めることが説明された。

議案第448号 人類学資料を取り扱う専門家の配置に関する要望書（案）について

佐藤理事から、アイヌ人骨・副葬品に係る調査研究の在り方に関するラウンドテーブル（以下、アイヌラウンドテーブル）参加の3学協会から、北海道及び同教育委員会に、人類学資料を取り扱う専門家の配置に関する要望書を提出したいとの説明があり、文案が提示された。要望としては、出土したアイヌ人骨保管環境の整備及び人類学の知識を有する専門家の配置について求めるものであり、原案通り承認した。

議案第449号 退会の承認について

久保田理事から、北海道の*会員、東京都の*会員から退会届けが提出されている旨の報告があり、退会を承認した。

報告第595号 2017年度大会について

小澤理事から、「大会実施要項」に基づき、日程・役割分担の最終確認があった。

報告第596号 2017年度予算について

都築理事から、各事業担当理事に対して、期日までに来年度予算案の提出が求められた。

報告第597号 アイヌラウンドテーブル報告

佐藤理事から、10月16日（月）にアイヌラウンドテーブルを開催し、①本ラウンドテーブルの最終報告書作成にあたって実施したパブリックコメントへの回答を北海道アイヌ協会の公式サイトへ掲載することとした。②北海道への人類学資料を取り扱う専門家の配置に関する要望書（案）を作成した。③諸外国が保管しているアイヌ人骨の返還について検討を始める。④研究倫理委員会の立上げについて協議を行ったとの報告があり、了承した。

報告第598号 平成28年熊本地震対策特別委員会報告

宮本理事から、9月24日（日）・25日（月）に、熊本で、文化財の被災状況の現地調査及び被災自治体との面談を行い、面談では震災復興に伴う確認申請の増加について主な課題であることが確認された。また、面談後、9月25日（月）に委員会を開催し、①現地調査・面談を踏まえて、現状の把握と埋蔵文化財行政における課題を協議した。②抽出された課題を会員と共有し解決する目的で、来年度の総会でセッションを実施することとし、準備を進める。③機能的な運営と活動のために、委員の役割分担を決定したとの報告があり、了承した。

報告第599号 埋蔵文化財保護対策委員会報告

小笠原理事から、9月16日（土）に委員会を開催し、①文化庁文化審議会文化財分科会企画調査会における文化財保護法改正に係る「中間まとめ」の意見募集について、協会としてのパブリックコメント案を作成した。②沼津市高尾山古墳について、現状の説明があり、引き続き注視していく必要がある。③筑紫野市前畑遺跡の土塁遺構については記録保存となったが、周辺に関連遺構が存在する可能性があり、現地への視察やシンポジウム参加等を継続するとの報告があり、了承した。

報告第600号 研究環境検討委員会報告

堀内理事から、9月9日（土）に委員会を開催し、①2017年度宮崎大会におけるポスターセッションについて協議した。②埋蔵文化財保護行政に関わる職員の採用動向に関するアンケートについて、集計したところ地域的な偏りがあることから、締切を延長して再度打診することとなった。③70周年記念の『日本考古学』について、執筆内容・構成等を協議したとの報告があり、了承した。

報告第601号 国際交流委員会報告

佐々木憲一理事から、①2018年1月20日（土）に明治大学において、「アジアの煌めきーガラスが結ぶアジアの東西ー」と題し、「考古学におけるガラス」をテーマに第11回アジア考古学四学会合同講演会の開催を予定している。②2018年6月に南京大学で開催される東アジア考古学会世界大会の要項並びに研究発表申込の案内を公式サイトに掲載したとの報告があり、了承した。

報告第602号 協会寄贈図書について

近藤副会長から、奈良大学から協会一括寄贈図書の登録完了通知があり、譲渡契約書に基づく最終冊数は61,799冊で、手続きが完了した。本登録完了報告を受けて、会長及び副会長で奈良大学へ挨拶に行く予定であるとの説明があり、了承した。なお、総大会時の図書等については寄贈を継続していく。

以 上